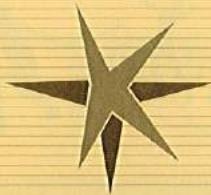


高く・強く・楽しく



柏崎体育

第173号

Kashiwazaki City Sports Association

(一財)柏崎市体育協会広報誌

2018年8月1日発行

編集

●(一財)柏崎市体育協会広報部

印刷●柏崎インサツ

平成30年度全国高等学校総合体育大会出場選手激励会開催

大会スローガン「翔べ誰よりも高く 東海の空へ」(開催地:三重県を中心に東海地区)

7月5日(木)に今年は会場を市民プラザに移し激励会を開催しました。4種目、3高校(柏崎高校、柏崎工業高校、産大附属高校)から36名の選手が参加しました。

坂井体協会長、本間教育長はじめ、花井陸上会長、河谷ハンドボール会長、本間卓球会長、深井ソフトテニス副会長より激励の言葉をいただきました。体協か

らの激励金贈呈の後、各種目・チームの代表が決意表明をしました。柏崎高校、ソフトテニスの田村さんは「勉強との両立に苦労したことや、短期間でのダブルス練習は辛かったこと。指導者、支援者、先生方に感謝するとともに、大会でベストを尽くす。」と力強く抱負を述べました。



★今年度の活動方針



30年度も早4か月余が過ぎました。今年度は理事の改選期に当たり、評議員会の承認を得て3名の理事が交代となりました。新任理事共々全力で協会の運営に当たっていく覚悟です。

さて、柏崎市の第5次総合計画でも、スポーツの振興を掲げて諸々の施策を講じております。その施策を実践する立場である当体育協会は、基本理念に「スポーツ文化の風吹くまち・柏崎」を掲げて、各競技水準の向上と市民(生涯)スポーツの推進と充実を図っております。29年度も2月5日号で報告のとおり、素晴らしい成果がありました。今年度も全国で活躍する選手を多数輩出することや、市民スポーツを充実させるために、支援して参りたいと思います。

そのため、

- 各加盟団体と一緒に、さらなる競技力の向上を図る。
- 競技選手の競技力アップとジュニア育成を推進する。

(一財)柏崎市体育協会 会長 坂井和之

2 市民スポーツの拡充を推進する。

市スポーツ振興課や各協会・かしわざき振興財団とタイアップして、気軽に参加し楽しめるスポーツの機会を設け、活動の場の提供を進める。

3 財政の確保を図る。

加盟団体が、選手強化や普及活動を推進するための活動費を確保するために、協賛企業及び個人の賛助会員の増加を図る。

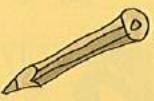
4 活性化を図る。

専門部会及びスポーツ少年団の更なる活動を進め、当協会の活性化に努める。

ホームページ等で、市民への広報活動を推進する。

以上4つの重点施策を掲げ、全理事で「共通実践」を合言葉に、運営に当たっていきたいと思います。それには、市スポーツ振興課・各加盟団体・かしわざき振興財団等と緊密な連携が不可欠です。スムーズな事業推進のために、市民の皆さんのご理解とご指導・ご鞭撻をよろしくお願いします。

加盟団体のPRコーナー



野球人口の増加を目指して

～9月29日・30日に佐藤池球場に全国大会を観に行こう～

柏崎野球連盟 事務局長 井比孝広

柏崎野球連盟は昭和27年3月に発足した団体で、今年で67年目を迎えました。現在の加盟チームは、一般の部（大人）が15チーム、学童の部（小学生）が13チームで、選手の数は全体で519人が活動をしています。主な事業は公式戦の運営ですが、学童の部を運営している柏崎学童野球連盟では、子どもたちの健全育成と併せて、野球による故障をしない体づくりにも取り組んでおり、長く野球ができる様な基礎づくりにも力を入れています。

少子化・人口減少が全国的な課題になっている昨今、野球界も同様で、当連盟の一般の部においては、かつてのチーム数の3分の1程度になっているとのことで、改めて野球人口の減少を感じているところであります。スポーツの多様化やチームスポーツならではの難しさもあり、なかなか思うような野球人口の増加には至っていないのが現状です。今後も関係機関と連携し、野球の魅力を伝える活動にも取り組んでいきたいと考えています。

そんな取組のひとつとして、国体チームの「オール柏崎」の活動があります。このチームは、当連盟に所

属するチームから選手を選抜して、国体に出場することを目指して頑張っているチームです。昨年は上越大会で勝利し県大会に出場しましたが、1回戦で敗退てしまいました。今年は、上越地区代表として県大会に出場して1、2回戦を勝利、決勝リーグまで進みましたが、宿敵北陸ガスに敗れてしまいました。来年こそは県代表となり、北信越大会で勝利し本国体に出場することを目指して頑張っていきたいと思います。そして、この活動が、学童や中学生の選手に夢と希望を届け、野球の魅力発信につながってくれればとも思っています。

さて、今年の9月には、第62回高松宮賜杯全日本軟式野球大会が新潟県で開催されます。柏崎市佐藤池野球場でも9月29日（土）、30日（日）に計5試合が行われ、全国各地から強豪チームが集まります。新しくなったピッカピカのスコアボードに、柏崎市民の歓迎メッセージを映して、おもてなしをしようと考えています。どうぞ皆様、柏崎おもてなし応援団の一員になって野球の魅力を満喫しませんか。お待ちしています。

高松宮賜杯 第62回全日本軟式野球大会

平成30年9月28日(金)～10月1日(月)

佐藤池野球場では9月29日(土)・30日(日)に試合が行われます。

		TEAM 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 R HE									
B	H	佐藤池野球場スコアボード改修リニューアル記念									
S	E										
F	C										
TN	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	R	H	E	U	MPIRE	TN	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	R	H	E
剣 大池 大賀 吉長 横 稲 勝 野 橋 田 伸 藤 川 坂 爪 国 内	Phoeny	福 望 宮 安 大 田 月 嶋 達 藤	2018								

野球をする人もそうでない人も
観に行きませんか!?



122M

復活を目指して

柏崎ソフトテニス連盟 副会長 深井 賢一

ソフトテニスはテニスを基にして日本で生まれ日本で育ったものです。当初は庭球と呼ばれており、その後軟式テニスから現在のソフトテニスという名称に変りました。

柏崎に於いてソフトテニスの歴史は古く、県内でもレベルの高い地域だったと諸先輩方から伺っております。しかし残念ながら現在は他地域に後れを取っている気がいたします。連盟では年間を通じて中学、高校・一般の大会を開催しておりますが、ソフトテニスにご理解いただいている市内企業様より小中学生のレベルアップのために冠大会を主催していただいております。

スポーツに限らず全ての分野に共通することですが、幼い頃から慣れ親しむことが大切かと思います。連盟でもソフトテニスのすそ野を広げ、一人でも多くレ

ベルの高い選手を育てるべく、小学生を対象に1年を通してジュニア教室を開催しており、年間延べ2,000人以上の子ども達が参加しております。また、中高生のレベルアップのために、県内トップレベル選手による強化練習会や全国レベルの企業選手による技術講習会を開催し、「強い柏崎」を目指しているところでです。高校に於いては優秀な指導者のもと、徐々に力を付けてきており、全国まであと一步と言うところまで来ています。一般では前述の企業様に採用していただいた選手が国体選考会を勝ち抜いて代表に選ばれています。

このように、各方面からお力添えをいただきながら「ソフトテニスの柏崎」の復活を目指して頑張っているところです。

稽古で自分と向き合う

合気道柏崎道場 廣川 和久

合気道柏崎道場は、公益財団法人合気会の公認道場として約40年間柏崎市内で活動しています。現在、会員は10名、以前は少年クラスもありましたが、今は高校生以上の募集となっています。稽古時間は、毎週月・水の19時半から21時、場所は武道館です。

活動内容としては、合気道は試合形式をとらない為、型をそれぞれのレベルに合わせて稽古する事が中心です。昇段昇級は級までは道場内で審査し、初段からは本部道場の師範にお願いしています。又、普段



の活動の他に毎年5月に日本武道館で行われる全日本合気道演舞大会への出場、年4回、本部道場から師範を招いての講習会にも積極的に参加しています。

合気道はともすると、気合で相手を倒すとか、触れずに投げる様に思われがちですが、本来は合理的な身体の使いによって相手を制すことが出来る武道です。稽古をする上で一番大切にしている事は、力任せに投げたり抑えたり、結果的に技がかかれば良しとするだけではなく、それ以上に自分の姿勢がくずれないか、正しく動けているか自分自身がどれだけ意識出来ているかというところです。つまり、いかに自分自身としっかり向き合えているかということです。そして、そんな稽古を続けることによって稽古以外のとき、特に自分が追い込まれている時に平常心でいられる力を養うことが稽古の最大の目的であると思います。

合気道は現在、世界140の国と地域にまで裾野が広がっています。このことは、そんな合気道の精神が世界的に理解されている証しであると思います。柏崎道場は小さな道場ではありますが、一人でも多くの合気道の道友が集まることを目指してこれからも地道に活動を続けていきたいと思います。

見学者大歓迎！一緒にワンバウンドバレーをやりませんか

柏崎ワンバウンドバレーボール協会 会長 伊藤 正喜

ワンバウンドバレーは昭和60年に柏崎市老人クラブ連合会の指導により、各コミュニティセンターの代表者が当時の北蒲原郡中条町で指導を受け、柏崎市に球技スポーツとして根付かせました。昭和61年11月26日中越スポーツハウスで第1回大会を開催し、

Aグループ 6チーム

Bグループ 9チーム (1チーム6人編成)

Cグループ 9チーム

で試合を行ったとの記録があります。

今年は4月11日に、第31回大会を総合体育館で開催し、10支部

Aグループ 7チーム

Bグループ 6チーム が参加しました。

近年のワンバウンドバレーチームの活動は、県全体ではここ1~2年で3地域の連盟が退会しました。柏崎市ワンバウンドバレー協会でも、昨年1支部、今年2支部が人員不足を理由に退会しました。柏崎市10支部の内で1チーム6人を、2チーム作れる支部は3支部のみです。時には試合で6人が組めないこともありますが、大会参加時は他チームから

借りての参加を認め、少しでも多くの人の参加を目指しています。日常の練習日も他チームの人の参加で人数不足を補いながらクラブの維持を保っています。市の広報では、高齢者の数は年々増加していると報じられていますが、「スポーツを通じて豊かな生活を送る社会の実現」のキャッチフレーズとは逆に、70才まで働かなければ生活して行けないという人の声が多く聞かれます。メンバーを増やす事のむずかしさを痛感していますが、コツコツ頑張って活動しています。

各支部ではメンバーを募集しています。男性60才以上女性45才以上の方で、体を動かしてみたいと思っている方は、最寄りのコミュニティセンター又は、市体育協会にお問い合わせ下さい。



事務局だより

事務局長 品田 賢一郎

新体制の体協がスタートしました。当役員の任期は、2か年です。2年後にはオリンピックが開催されます。昔は参加することに意義があると教えられましたが、今はそんなに甘いものじゃないようです。

近年スポーツをとりまく、いろいろな風を感じます。学校の部活動の問題、指導及び指導員の在り方、勝利至上主義に関わる様々な問題(根性主義・暴力...)など、台風のような風に感じるものがあります。これらの問題に対応するためには、通り過ぎるのを待つのではなく、戸締りをしたり風除けを作ったりして、身を守り、家を守るように、当体協を守り育てていくことが重要と考えています。

体協事務局の個の力だけでは力が足りないので、加盟団体の仲間(同志)の皆さん之力を借り、共働・協働を得て進みたいと思っています。二人でオールをこぎ、一人が舵をとり、時にはチェンジしますが、進まずに同じところを回っていることのないように、協働して事務局運営を行っていこうと思っています。

市民の皆さんとともに、共働・協働の風吹く柏崎のスポーツの発展に力を注ぎたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

〒945-0061 新潟県柏崎市栄町18-11柏崎市武道館内

一般財団法人 柏崎市体育協会 広報部

TEL・FAX 0257(22)5597 e-mail : info@kashiwazaki-sports.jp
URL <http://www.kashiwazaki-sports.jp>